

2022年3月吉日

神戸親和女子大学の「男女共学化」(予定)について

平素は親和学園の教育研究にご理解とご支援を賜り、心よりお礼を申し上げます。

さて、本日は、親和学園が設置する神戸親和女子大学について重要なお知らせをいたします。

神戸親和女子大学は、2023年4月1日から男女共学の大学に移行いたします。その理由と背景について説明申し上げます。

現代は、DX(デジタルトランスフォーメーション)に代表されるように、驚異的なテクノロジーの革新、グローバル化、加速度的に進行する少子高齢化、そしてコロナ禍により、種々の分野で「破壊的な変化」が起こっています。まさに、VUCA(変動性・不確実性・複雑性・曖昧性)の時代と呼ぶにふさわしい激動の時代となっています。

この先の読めないVUCAの時代において、コロナ禍もあり、高等教育(大学)の教育研究に要求されるものも大きく変わってきました。とくに、性別・人種・文化・世代を超えて、社会的な課題の解決に他者と協働して取り組む人材の育成が急務となっています。大学はこれまで主として社会において必要となる一定の知識とスキルを得る機関として機能して参りましたが、今や、変化の速い時代においては教育研究の在りようを根本から問い直し変えなければならない転換期に直面しているものと認識しています。

とくに日本では少子高齢化が加速度的に進行しています。30年前には18歳人口は200万人を超えていましたが、2021年の出生数は約84万人となりました。数年先には、70万人を割るとも予想されています。一方、この間、大学数は約2倍になり、大学間の学生確保をめぐる競争は文字通り「サメの棲むレッドオーシャン」の状況にあります。

このようなVUCAの時代、DXの時代、少子高齢化の時代、そしてコロナ禍等々、時代の変化に対応して大学も変わらなければ存続発展できないと考え、そして、この時代の転換期こそ、本学が共学の大学として生まれ変わるタイミングであると判断致しました。ご理解を賜れば幸いに存じます。

また、共学化の個別的な理由として、教員不足という社会的課題の解決への貢献という面があります。現在、教員志望者が加速度的な減少傾向にあり、多くの教員養成系の学部学科が志願者・入学者を大きく減少させているという状況があります。すでに、幼稚園教諭・保育士・小学校教諭の不足が深刻化しつつあります。本学の場合、教員養成に注力し高い実績を残してきましたが、こうした教員志望者の減少と教員不足という状況に危機感を抱き、共学化でこの市場を拡大することで、教員不足という社会的な課題の解消に貢献できるものと考えています。

いずれにしても、このたびの共学化は、新たな大学として生まれ変わる、親和学園の歴史に新たなページを刻む、まさにトランスフォーメーションであるをご理解をお願い申

申し上げます。

なお、文科省により共学化に伴う寄附行為の変更（校名等）が正式に認可されたとき、改めて新たな大学名を報告させていただきます。

なお、同じく親和学園が設置する親和中学校・親和女子高等学校は、創立 135 周年を迎えて、今後も、女子教育のさらなる充実と発展に努めて参る所存です。変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

終わりにになりましたが、コロナ禍の収束が見えない中、どうぞ感染防止と体調管理にお努め下さいますよう祈念申し上げます。

学校法人親和学園
理事長 山根耕平